

ハマスズ *Dianemobius csikii* (Bolivar)

【選定理由】

本種は、きれいな砂浜と海岸林や砂防林の間の草がまばらに生えるような環境に生息する。県内での分布記録は少ない。近年の観光開発や砂浜の減少で、こうした生息環境は減少しつつあり、本種の存続が懸念される。

【形態】

小型の地表性のコオロギ。体長は♂・♀とも 7~9mm。全体が白褐色で、全身に黒褐色の斑点を散布する。♂・♀とも翅はあるが一般に短翅である。後脚腿節には上面から見ると三つの黒褐色紋が顕著である。生息地の砂浜の砂粒と酷似した体色・模様のため、静止している個体を見つけ出すのはむずかしい。夜間は背の低い草むらで鳴くので見つけやすくなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美半島の伊良湖岬と豊橋市表浜の砂浜から記録されているのみ(石津・荒川, 1953; 長谷川, 1991)。

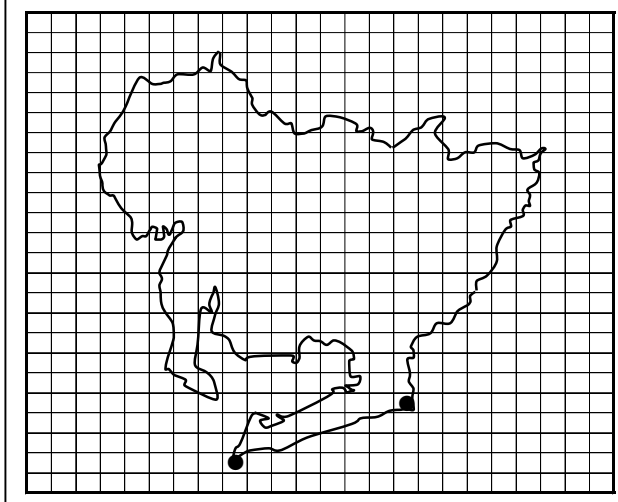
【国内の分布】

本州、四国、九州。南西諸島(徳之島以北)。

【世界の分布】

韓国、中国北部、台湾にも生息するという(市川ほか, 2000)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

県内での既知の生息地は海岸砂浜のみであるが、他地方では内陸の河原にも生息するという。きれいな砂浜の陸側で、まばらに草の生えているような所を好む。土を被ったり汚染されたりした砂浜には生息しない。

【現在の生息状況／減少の要因】

伊良湖岬では 1952 年に記録されているが、その後の記録はない。同地は観光客が多く、海辺や砂浜への立ち入りが多い。豊橋市表浜では、1990 年当時は本種の個体数はさほど少なくはなかったという(長谷川, 1991)、その後の記録は見られない。2006 年 9 月現在の豊橋市での現地調査でも見出すことはできなかった。ここは、現在ウミガメ保護のため自動車の乗り入れが禁止されており、本種の存続にも好都合となっている。

なお、本種は一般的な鳴く虫飼育の対象とはなっておらず、採集圧による減少はないと思われる。

【保全上の留意点】

草がまばらに生える汚染のない砂浜・砂地を継続して維持すること。生息地への過度の立ち入りによる踏みつけや、自動車やサンドバギーの乗り入れによる環境の大きな攪乱・汚染を防ぐ必要がある。

【引用文献】

- 石津明右・荒川鳳三, 1953. ハマスズ、マツムシモドキ伊良湖岬に産する. 虫譜, 3 (1): 7-8.
市川顕彦・村井貴史・本田恵里, 2000. 総説・日本のコオロギ. ホシザキグリーン財団研究報告, 4: 257-332.
長谷川道明, 1991. 豊橋市表浜におけるヤマトマダラバタとハマスズの採集例. 佳香蝶, 42 (164): 63.

【関連文献】

- 日本直翅類学会編, 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑: 484. 北海道大学出版会, 札幌.
市川顕彦ほか, 2016. バッタ目. 日本直翅類学会(編), 日本産直翅類標準図鑑: 95,267. 学研プラス, 東京.

(水野利彦)